Phonetic Features of Huizhou Dialects in China

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46153

人間社会環境研究　第32号　2016. 9

中国・徽州方言の音韻的諸特徴

人間社会環境研究科　人間社会環境学専攻
胡　　貴　躍

要旨

徽州方言は旧徽州府を中心とした地域で話される漢語方言の総称であり，主に現在の安徽省南部に，また一部は江西省北部に分布している。呉語，贛語，江淮官話という三つの方言に囲まれているため，徽州方言は方言接触の坩堝であり，かなりの程度の内部差異が存在する。しかしながら，徽州方言に関する従来の研究は，一地点方言を対象とした歴史音韻学的研究か数地点方言に共通する音声特徴の研究が中心であった。本稿は2015年に実施した方言調査の結果を報告する。徽州地区の祁門，婺源，績溪三県，計36地点で収集した方言資料に基づいて，音声の共通性と差異を検討する。

キーワード

徽州方言，音韻

Phonetic Features of Huizhou Dialects in China

HU Guiyue

Abstract

The Huizhou defined herein refers to a Chinese dialect group mainly spoken in the area around the old Huizhou region. This region spans the southern region of Anhui Province and the northern part of Jiangxi Province. Surrounded by an area with three major dialects, namely Wu, Gan, and Jianghuai Mandarin, this area has long been a crucible of dialect contact, owing to which there exists a considerable degree of linguistic difference. However, research so far conducted on the Huizhou dialect largely focuses on phonetics of one specific dialect or on similarities among several dialects from the aspect of phonology. This essay reports on the field research I conducted in 2015. Based on the materials I surveyed for 36 dialects of 3 counties in this area, namely Qimen, Wuyuan, and Jixi, I identify similarities and differences of these dialects through describing the phonetic features of each.

Keyword

Huizhou dialect, Phonetics

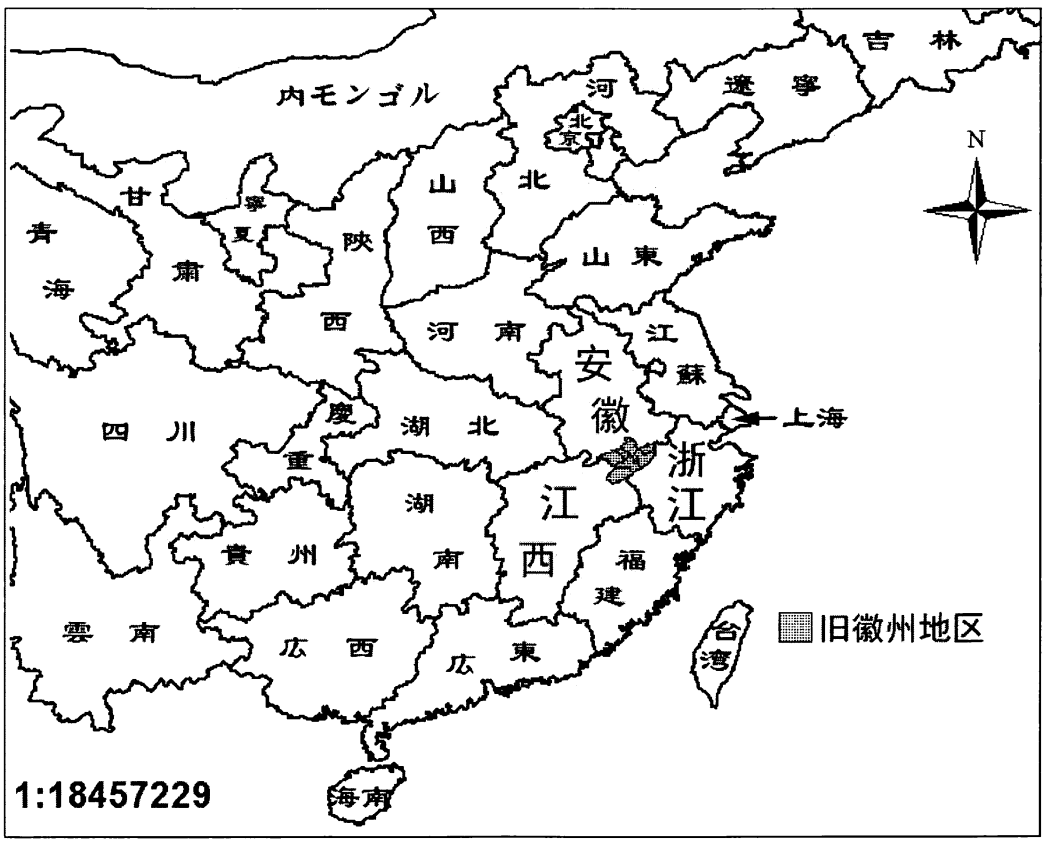
1．はじめに

徽州方言とは主に旧徽州地区で話される漢語方言を指す。旧徽州地区は安徽省，江西省，浙江省三省の境界地帯に位置し，東経118°，北緯29°，おおよその中国の南東部にある（地図Ⅰを参照）。昔から江南と内陸をつなぐ水路交通の要所であったため，「七省通衢」（七つの省を連結する要衝路）と謳われていた。旧徽州の管轄区域には三つの地域があった。それぞれ，現在の安徽省の黄山市，績溪県，及び江西省の婺源県である（地図Ⅱを参照）。黄山市はさらに歙県，休寧県，黟県，祁門県，屯溪区，徽州区に分かれる。実際にはこれら二区四県の他に，黄山風景区もあるが，しかし昔から人口が少なかった地域であるため，調査対象とはしない。また，現在「徽州地区」と呼ばれる地区があるが，それは黄山市に属する小さい行政区のみを指す。以下でいう「徽州」は，すべて旧徽州地区のことである。調査地点名はすべて当該話者が居住する行政村の村名であり，郷鎮名ではない。

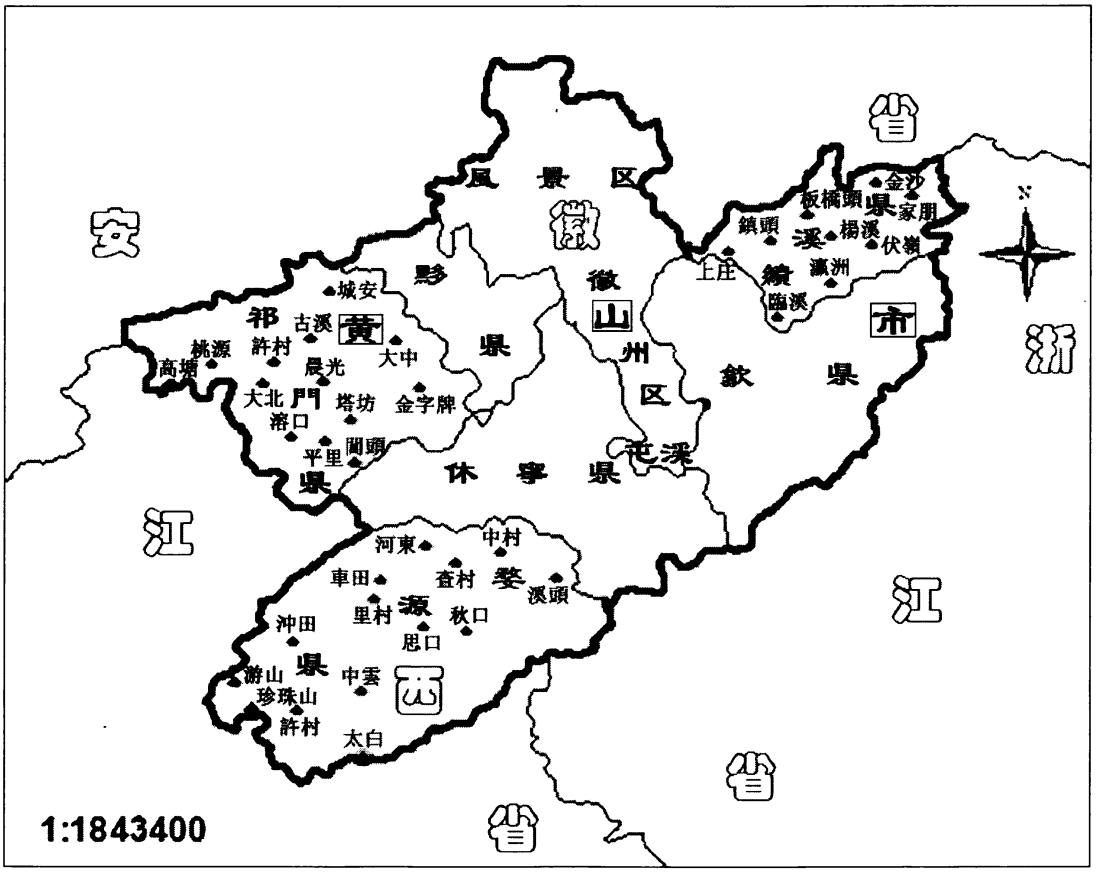
この地方の漢語方言は徽州方言と総称されているが，内部差が非常に大きい。その上，当地は呉語，贛語，江淮官話の三つの漢語方言区に囲まれ，外部方言の影響を受けてきたため，言語接触の面で研究価値が高い。

2．調査地点，話者，調査内容

今回の調査地点は，地図Ⅱに示すように，徽州地区の36の方言地点である。具体的には，祁門県の金字牌，大中，塔坊，平里，溶口，閶頭，晨光，大北，許村，古溪，城安，桃源，高塘，婺源県の中村，溪頭，秋口，河東，查村，車田，里村，思



地図Ⅰ　中国における旧徽州地区の位置



地図Ⅱ　旧徽州の行政区画及び調査地点

口，中雲，太白，許村，珍珠山，沖田，游山，績溪県の臨溪，上庄，鎮頭，瀛洲，伏嶺，楊溪，板橋頭，金沙，家朋である。金字牌の許村と婺源県の許村は同じ地名であるが，異なる地点である。

中部の歙県，休寧県などは今年の３月に調査済みだが，データ整理は未完了のため，本稿では扱わない。

方言話者は各村の生え抜きとし，原則60歳以上の老人男性一名ずつ選んだ。但し，鎮頭と家朋の２地点は女性である。

調査内容は，漢字で書かれた調査表を音読してもらったほか，基礎語彙カードを用いて事物の名称や呼称を尋ねた。

３．先行研究と徽州方言の特徴

徽州方言主な先行研究としては，平田（1998），謝（2008），趙（2002，2005）などがある。これらの研究は，ある一地点の方言の音声，あるいは数地点の方言に共通する特徴を対象とした記述研究である。例えば，平田（1998）（『徽州方言研究』）は，歙県県政府の所在地である徽城など，７つの市・県政府の所在地の方言を対象とし，それらの音韻体系について詳細な記述をおこなっている。趙（2005）（「徽語中的長元音」）は，徽州方言に存在する長母音の種類，性質，由来などについて考察したものである。いずれも音声学，音韻学を中心とした研究であり，言語地理学的研究はまだおこなわれていない。

徽州方言にはかなりの程度の内部差異が存在す

る一方で，共通する特徴も少なくない。ここでは趙（2005）を参考に，いくつかの特徴を，以下のとおりまとめた。

(1) すべての古全濁声母は既に清音化しているが，有気音になったものと，無気音になったものがある。分化の規則はまだ明らかになっていない。

(2) ほとんどの地点ではn/lを区別しないが，区別する地点もある。

(3) 北京語で［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］と読む字は，徽州方言の多くで［ts］［tsʰ］［s］や［tɕ］［tɕʰ］［ɕ］と読まれているが，［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］を保存する方言もある。

(4) 中古音の軟口蓋音［k］［kʰ］［x］は，介音i又はyの前でほとんど［tɕ］［tɕʰ］［ɕ］に変化した。介音i又はyの前で［k］［kʰ］［x］を保存する方言もあるが，その数は非常に少ない。

(5) 中古音の鼻音韻尾-m，-n，-ŋは，鼻音化，脱落，合流など大きな変化が発生した。多くの徽州方言では-nと-ŋあるいは-ŋだけが見られ，-mは婺源県の一部にしか存在していない。また，-m，-n，-ŋは全部脱落して鼻音化韻母か口母音になっている地点も少なくない。

(6) 多くの徽州方言では指小辞（dimunitive morpheme）である［n］を語幹に接尾して，1音節として発音している。韻母と声調が変化することもある。例えば，黟県方言の「花」：［xuɐ^{31}］→［xuən^{44}］

(7) ほとんどの地点は六声調であり，平声と去声が中古声母の清濁によって，陰平と陽平，陰去と陽去に分化している。

(8) ほとんどの地点には音節長が短い声調（下文では「短促調」と呼ぶ」）があるが，何に由来するものなのかは地点によって異なる。

4．音韻の特徴

4.1.1　単音節声調体系の分類

まず，本稿で使用される五度式表記法について説明する。これは中国で声調の調値を表記するのに使われる方法で，声の高さを低→高の順に1，2，3，4，5の数字で示すものである。通常は，2つの数字で平板調，下降調，上昇調を示し，3つの数字で曲折調を示す。例えば，［44］は平板調であり，［213］は少し下降した後すぐ上昇する声調である。一つの数字（［3］），あるいは下線を付けた数字（［<u>54</u>］）は音節が短い「短促調」を示す。表1は，36地点の方言の単音節声調を示したものである。以下の表では，まず祁門県，婺源県，績溪県の順に並べた上で，各県に属する各地点は，祁門県は東から西，婺源県は北から南，績溪県は南から北になるように並べた。但し，績溪県と祁門県の声調分化には相似点があるため，表1においてのみ，績溪県のデータを最上段に並べた。

表1から，すべての地点が六声調であることが分かる。平声，去声は，いずれも中古音の声母の清濁によって陰調と陽調に分化している。方言間で異なるのは上声と入声である。36地点の方言は以下の三つの類型に分類できる。

A類は，①上声，入声いずれも陰調と陽調に分化しておらず，かつ②上声，入声いずれも他の調類と合流していないもの。陽去は平板調（［33］）や低下降調（［21］）であり，入声は短促調（［<u>54</u>］，［3］）である。この類型は，績溪県の上庄，鎮頭，瀛洲，伏嶺，板橋頭，家朋にのみ分布している。

B類は，①上声は陰上と陽上に分化していないが，②入声が陰入と陽入に分化しているもの。また陽入と陽去は合流しており，平板調（［33］，［22］）である。この類型は，祁門県の各地点及び績溪県の臨溪，楊溪，金沙に分布している。

C類は，①上声は陰上と陽上に分化しているが，②入声は陰入と陽入に分化していないもの。入声は分化せずに，陽去と合流して平板調（［55］）や下降調（［53］など）になる。もう一つの特徴は，分化した陰上が短促調（［3］）になることである。この類型は，婺源県の各地点に分布している。

三類型の特徴をまとめると，表2となる。

4.1.1　各類型の下位分類

以上の三類型は，調類と調値の関係によって，それぞれ下位分類できる。

表 1　単音節声調表

	調査地点	類型		陰平	陽平	陰上	陽上	陰去	陽去	陰入	陽入
績溪県	上庄	A	A1	21	42	55		324	33	54	
	鎮頭		A1	21	42	55		324	33	54	
	瀛洲		A2	42	44	213		35	21	3	
	伏嶺		A2	42	44	213		35	21	3	
	板橋頭		A2	42	55	213		35	22	3	
	家朋		A2	42	44	213		35	21	3	
	臨溪	B	B1	31	55	35		213	22	3	= 陽去
	楊溪		B2	21	55	44		212	33	35	= 陽去
	金沙		B2	21	55	44		213	33	35	= 陽去
祁門県	金字牌		B3	31	55	53		213	33	35	= 陽去
	大中		B3	21	55	42		212	33	35	= 陽去
	塔坊		B3	21	55	42		212	33	24	= 陽去
	平里		B3	21	55	53		212	33	25	= 陽去
	溶口		B2	21	55	44		212	33	324	= 陽去
	閶頭		B3	21	55	42		213	33	35	= 陽去
	晨光		B3	21	55	53		212	33	35	= 陽去
	大北		B4	21	55	35		42	22	214	= 陽去
	許村		B4	21	44	35		42	22	213	= 陽去
	古溪		B4	21	44	35		42	33	214	= 陽去
	城安		B4	21	55	35		42	33	324	= 陽去
	桃源		B5	21	35	44		212	33	324	= 陽去
	高塘		B5	21	35	44		212	33	324	= 陽去
婺源県	中村	C	C1	33	53	3	31	213	55	= 陽去	
	溪頭		C1	33	53	3	31	213	55	= 陽去	
	秋口		C2	33	21	3	53	324	31	= 陽去	
	河東		C2	33	21	3	53	324	31	= 陽去	
	查村		C2	33	21	3	53	324	31	= 陽去	
	車田		C3	44	21	3	31	324	53	= 陽去	
	里村		C3	44	21	3	31	324	53	= 陽去	
	思口		C2	44	21	3	53	324	31	= 陽去	
	中雲		C4	33	21	3	31	35	51	= 陽去	
	太白		C4	44	21	3	31	35	51	= 陽去	
	許村		C5	33	51	3	31	35	55	= 陽去	
	珍珠山		C5	33	51	3	31	35	55	= 陽去	
	沖田		C4	33	21	3	31	35	51	= 陽去	
	游山		C4	33	21	3	31	35	51	= 陽去	

表 2　単音節声調の分類基準

	基準 I		基準 II	分布地域
	上声	入声	入声と陽去	
A 類	未分化		入声 ≠ 陽去	績溪県
B 類	未分化	陰入，陽入に分化	陽入 = 陽去	祁門県，績溪県
C 類	陰上，陽上に分化	未分化	入声 = 陽去	婺源県

表3　A類型

	陰平	陽平	上声	陰去	陽去	入声	分布地域
A1類	低降 [21]	高降 [42]	高平 [55]	中曲 [324]	中平 [33]	高短 [54]	上庄，鎮頭
A2類	高降 [42]	高平 [44] [55]	低曲 [213]	中昇 [35]	低降 [21]	中短 [3]	瀛洲，伏嶺， 板橋頭，家朋

A類は以下のように二類型に分類できる（表3参照）。A2類の板橋頭の陽去は表1で［22］としたが，やや下降するため，低降調とも言える。

B類の陰平，陽去（陽入＝陽去）の調値はほぼ同じであり，それぞれ下降調の［21］［31］と平板調の［22］［33］である。異なるのは陽平，上声，陰去，陰入である。この4つの調類と調値の関係から見ると，以下のように五類型に分類できる（表4参照）。太字で示すものは，分類の基準とした特徴的な調値である。

陽平ではB5類の上昇調（［35］），陰去ではB4類の高降調（［42］）が，それぞれ他のグループのものと異なっている。

B1，B2，B3類の差異は上声の調値に表れる。B1類は上昇調（［35］），B2類は高平調（［44］），B3類は高降調（［53］［42］）である。この他，陰入はB1類だけが短促調（［3］）である。

ひとつ注記すべきなのは，B2類の2つの高平調（［44］と［55］）は音韻対立するのに対し，B4類の［44］と［55］は自由変異だという点である。

C類の陰平，陰上の調値はほぼ同じであり，それぞれ平板調の［33］［44］と短促調の［3］である。また，陰去の調値に上昇調（［35］）と曲折調（［324］［213］）があるが，ここでは区別しない。大きく異なるのは陽平，陽上，陽去（＝入声）である。この4つの調類と調値の関係から見ると，以下のように三類型に分類できる（表5参照）。

表4　B類型

	陽平	上声	陰去	陰入	分布地域
B1類	高平［55］	**上昇［35］**	低曲［213］	**短促［3］**	績溪県（臨溪）
B2類	**高平Ⅰ［55］**	**高平Ⅱ［44］**	低曲［213］	上昇［35］ 中曲［324］	績溪県（楊溪，金沙）， 祁門県（溶口）
B3類	高平［55］	**高降［53］［42］**	低曲［213］	上昇［24］［35］	祁門県東部 （金字牌，閶頭等）
B4類	高平［44］［55］	上昇［35］	**高降［42］**	曲折［213］［324］	祁門県中北部 （大北，許村等）
B5類	**上昇［35］**	高平［44］	低曲［213］	中曲［324］	祁門県（桃源，高塘）

表5　C類型

	陽平	陽上	陽去	分布地域
C1類	**高降［53］** **高降［51］**	中降［31］	高平［55］	中村，溪頭，珍珠山，許村
C2類	低降［21］	**高降［53］**	中降［31］	秋口，河東，查村，思口
C3類	低降［21］	中降［31］	**高降［53］** **高降［51］**	車田，里村，中雲， 太白，沖田，游山

陽平ではC1類の高降調（[53] [51]），陽上ではC2類の高降調（[53]），陽去ではC3類の高降調（[53] [51]）が，それぞれ他のグループのものと異なっている。つまり，どの声調が高下降調で実現されるかに基づくことで，以下のように三類型に分類できる（表5参照）。

4.2 声母

この小節を始める前に，中国語の声母及び韻母について簡単に説明する。声母は音節頭位の子音を指し，韻母は音節の残りの部分を指す。例えば，“休”の発音は北京語で［ɕiou^{55}］であるが，声母は［ɕ］，韻母は［iou］である。韻母はまた韻頭（介音），主母音，韻尾に分けられる。この場合はそれぞれ［i］［o］［u］に対応する。韻頭及び主母音は必ず母音であるが，韻尾は子音である場合もある。韻尾としての子音中国語は［n］と［ŋ］しかなく，鼻音韻尾と呼ばれている。主母音は必要要素だが，韻頭や韻尾はなくてもよい。例えば，“家［tɕia^{55}］”は韻尾がない。音節の右上につけた数字は調値である。

4.2.1 n/lの区別

北京語はn/lを区別する。それは中古音から継承したものである。しかし，漢語方言では，区別する方言，区別しない方言，あるいは部分的に合流した方言など，様々な状況が現れており，また，n/lを区別する方言の中にも異なる状況が見られる。黄（2007）によると，北方方言区や西北方言区の多くはn/lを区別しており，西南方言区や江淮方言区の多くは合流している。贛語，呉語には区別する方言と区別しない方言が混在している。

表6はn/lの区別を示したものである。今回の調査地点ではほとんどn/lを区別しないことがわかる。しかし，n/lを区別しないと言っても，実際の音声は後続韻母の種類によって異なる。

表6からわかるように，績溪県には一律に区別しない方言が多く，すべて［l］と発音する。しかし，祁門県と婺源県の多くの地点では「脳老女呂六」は［l］，「男欄農龍」は［n］である。［n］か［l］かは後続韻母とは関係がある。「男欄農龍」は，いずれも韻母が鼻音成分を含んでいる。つまり，鼻音韻母又は鼻音化韻尾が後続すれば，声母は［n］になる。韻母が鼻音成分を含まなければ，声母は［l］になる。つまり，n/lは相補分布をなしており，［n］，［l］は条件変異である。但し，城安のように［n］と［l］が音韻的に対立する方言もある。例えば，城安では「女」と「呂」をそれぞれ［ny^{35}］，［ly^{35}］と発音し，区別する。

4.2.2 ［si-］と［ɕi-］の区別

北京語の「修」と「休」は同音であり，どちらも［ɕiu^{55}］と読まれる。しかし，徽州では両者を区別する地点が多い（表7を参照）。例えば，祁門県の桃源では「修」は［siu^{21}］，「休」［ɕiu^{21}］である。［si-］/［ɕi-］の区別は，他方言にも存在し，中国音韻学では「尖団音」と呼ばれている。［si-］は尖音，［ɕi-］は団音である。また，［tsi-］，［ts^{h}i-］は尖音，［tɕi-］，［tɕ^{h}i-］は団音である。尖団音の区別は介音［y］の前にも現れる：［sy-］/［ɕy-］。

中古音では，団音が軟口蓋音［k］［k^{h}］［x］であった。軟口蓋音が介音iまたはyの前で舌面音になったのに伴って，［si-］/［ɕi-］の対立となった。しかし，北京語をはじめとする多くの方言で尖音と団音は合流に向かった。徽州方言及びその周辺の呉語，贛語，江淮官話でも合流に向かった方言が多い。

表7には尖団音を考察する時によく使われる五組の漢字を挙げた。各組の漢字は北京語では同音であり，どちらも［ɕi-］（［ɕy-］）あるいは［tɕ^{h}i-］（［tɕ^{h}y-］）になっている。表7によると，城安を除く祁門県と婺源県では，尖団音の区別があることが分かる。例えば，祁門県の金字牌では，「相」が［siɔ̃^{31}］，「香」が［ɕiɔ̃^{31}］である。これに対して，績溪県と祁門県の城安は尖団音の区別がない。尖団音の区別がない方言の多くは，北京語と同様に舌面音［ɕi-］になっているが，［si-］になっている場合もある。例えば，績溪県の金沙や家朋などでは，「修」と「休」は同音であり，どちらも［si-］になっている。

表 6　声母 n/l の区別

		脳	老	男	欄	女	呂	農	龍	六
中古音[1]		nau	lau	nam	lan	nai	lĭo	nuoŋ	lĭwoŋ	lĭuk
北京語		nau^{214}	lau^{214}	nan^{35}	lan^{35}	ny^{214}	ly^{214}	nuŋ^{35}	luŋ^{35}	liu^{51}
祁門県	金字牌	lo^{53}		nɔ̃^{55}		ly^{53}		nɤŋ^{55}		lɛ^{33}
	大中	lo^{42}		nɔ̃^{55}		ly^{42}		nɤŋ^{55}		lɛ^{33}
	塔坊	lo^{42}		nɔ̃^{55}		ly^{42}		nɤŋ^{55}		lɛ^{33}
	平里	lo^{53}		nɔ̃^{55}		ly^{53}		nɤŋ^{55}		lɛ^{33}
	溶口	lo^{44}		nɔ̃^{55}		ly^{44}		nɤŋ^{55}		liʌ^{33}
	閶頭	lɤ^{42}		nɔ̃^{55}		li^{42}		nɤŋ^{55}		lɛ^{33}
	晨光	lo^{53}		nɔ̃^{55}		ly^{53}		nɤŋ^{55}		lɛ^{33}
	大北	lo^{35}		nɔ̃^{55}		y^{35}	ly^{35}	nɤŋ^{55}		lɤ^{22}
	許村	lo^{35}		nɔ̃^{44}		y^{35}	ly^{35}	nɤŋ^{44}		lio^{22}
	古溪	lo^{35}		nɔ̃^{44}		y^{35}	ly^{35}	nɤŋ^{44}		lio^{33}
	城安	lau^{35}		nɔ̃^{55}		ny^{35}	ly^{35}	noŋ^{55}		liu^{33}
	桃源	lɑu^{44}		nɔ̃^{35}		y^{44}	li^{44}	noŋ^{35}		liu^{33}
	高塘	lɑu^{44}		nɔ̃^{35}		y^{44}	li^{44}	noŋ^{35}		liu^{33}
婺源県	中村	la^{31}		nã^{53}		li^{31}		nɤŋ^{53}		læ^{55}
	溪頭	la^{31}		nã^{53}		li^{31}		nɤŋ^{53}		læ^{55}
	秋口	la^{53}		num^{21}		li^{53}		nɐm^{21}		lʌ^{31}
	河東	la^{53}		nɔ̃^{21}		li^{53}		nɤŋ^{21}		lɑɯ^{31}
	查村	la^{53}		nɔ̃^{21}		li^{53}		nɤŋ^{21}		lɑɯ^{31}
	車田	la^{31}		nɔ̃^{21}		li^{31}		nɤm^{21}		lʌ^{53}
	里村	la^{31}		nɔ̃^{21}		li^{31}		nʌm^{21}		lʌ^{53}
	思口	la^{53}		nɔ̃^{21}		li^{53}		nʌm^{21}		lʌ^{42}
	中雲	la^{31}		num^{21}		li^{31}		nɐm^{21}		lʌ^{51}
	太白	la^{31}		nɤm^{21}		ny^{31}	li^{31}	nɑm^{21}		lɯ^{51}
	許村	la^{31}		num^{51}		ny^{31}	li^{31}	nʌm^{51}		lʌ^{55}
	珍珠山	la^{31}		num^{51}		ny^{31}	li^{31}	nɤm^{51}		lʌ^{55}
	沖田	la^{31}		num^{21}		ly^{31}		nɐm^{21}		lʌ^{51}
	游山	la^{31}		num^{21}		ny^{31}	li^{31}	nɑm^{21}		læ^{51}
績溪県	臨溪	lɤ^{35}		la^{55}		ly^{35}		lã^{55}		lo^{22}
	上庄	lɯ^{55}		nɔ̃^{42}		ly^{55}		nuɛ̃^{42}		lo$^{\underline{54}}$
	鎮頭	lɤ^{55}		nɔ̃^{42}		ly^{55}		nɛ̃^{42}		lɯ$^{\underline{54}}$
	瀛洲	lɤ^{213}		lɔ^{44}		ly^{213}		lã^{44}		lʌ^{3}
	伏嶺	lɤ^{213}		lɔ^{44}		ly^{213}		lã^{44}		lʌ^{3}
	楊溪	lɤ^{44}		lɔ^{55}		li^{44}		lã^{55}		lʌ^{33}
	板橋頭	lɤ^{213}		lɔ^{55}		ly^{213}		lã^{55}		lʌ^{3}
	金沙	lɤ^{44}		lɔ^{55}		li^{44}		lã^{55}		lʌ^{33}
	家朋	lɤ^{213}		lɔ^{44}		ly^{213}		lã^{44}		lʌ^{3}

表 7　[si-] と [ɕi-] の区別

		修	休	焦	驕	清	輕	相陰平	香	全	権
中古音		sĭəu	xĭəu	tsĭɛu	kĭɛu	tsʰĭɛŋ	kʰĭɛŋ	sĭaŋ	xĭaŋ	dzʰĭwɛn	gʰĭwɛn
北京語		ɕiu^{55}		tɕiau^{55}		tɕʰiŋ^{55}		ɕiɑŋ^{55}		tɕʰyan^{35}	
祁門県	金字牌	sɛ^{31}	ɕiɛ^{31}	tsia^{31}	tɕia^{31}	tsʰĂ^{31}	tɕʰĭɐ^{31}	siɔ̃^{31}	ɕiɔ̃^{31}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	大中	sɛ^{21}	ɕiɛ^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	tɕʰĭɐ^{21}	siɔ̃^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	塔坊	sɛ^{21}	ɕiɛ^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	tɕʰĭɐ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	平里	sɛ^{21}	ɕiɛ^{21}	tsɛ^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	tɕʰĭɐ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	溶口	siʌ^{21}	ɕiʌ^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰẽ^{21}	tɕʰĭɐ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	閶頭	sɛ^{21}	ɕiɛ^{21}	tsia^{21}	tɕio^{21}	tsʰĂ^{21}	tɕʰĭɐ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	晨光	sɛ^{21}	ɕiɛ^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	tɕʰĭɐ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	大北	siɤ^{21}	ɕiɤ^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	kʰĂ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{55}	tɕʰỹɐ^{55}
	許村	sio^{21}	ɕio^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	kʰĂ^{21}	siɔ̃^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{44}	tɕʰỹɐ^{44}
	古溪	sio^{21}	ɕio^{21}	tsia^{21}	tɕia^{21}	tsʰĂ^{21}	kʰĂ^{21}	siɔ̃^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰỹɐ^{44}	tɕʰỹɐ^{44}
	城安	ɕiu^{21}		tɕiau^{21}		tɕʰin^{21}		ɕiɔ̃^{21}		tɕʰyɛ̃^{55}	
	桃源	siu^{21}	ɕiu^{21}	tsia^{21}	tɕio^{21}	tsʰĂ^{21}	kʰĂ^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰɔ̃^{35}	tɕʰỹɐ^{35}
	高塘	siu^{21}	ɕiu^{21}	tsia^{21}	tɕio^{21}	tsʰã̆^{21}	kʰã̆^{21}	siẽɐ^{21}	ɕiɔ̃^{21}	tsʰɔ̃^{35}	tɕʰỹɐ^{35}
婺源県	中村	sæ^{33}	ɕiæ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰã^{33}	tɕʰiã^{33}	siã^{33}	ɕiã^{33}	tsʰĩ^{53}	kʰuĩ^{53}
	溪頭	sæ^{33}	ɕiæ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰã^{33}	tɕʰiã^{33}	siã^{33}	ɕiã^{33}	tsʰĩ^{53}	kʰuĩ^{53}
	秋口	sʌ^{33}	ɕiʌ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰɑ̃^{33}	tɕʰiɑ̃^{33}	siɑ̃^{33}	ɕiɑ̃^{33}	tsʰĩ^{21}	kʰuĩ^{21}
	河東	saɯ^{33}	ɕiaɯ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰã^{33}	tɕʰiã^{33}	siã^{33}	ɕiã^{33}	tsʰĩ^{21}	kʰuĩ^{21}
	查村	saɯ^{33}	ɕiaɯ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰã^{33}	tɕʰiã^{33}	siã^{33}	ɕiã^{33}	tsʰĩ^{21}	kʰuĩ^{21}
	車田	sʌ^{44}	ɕiʌ^{44}	tsio^{44}	tɕio^{44}	tsʰæ̃^{44}	tɕʰiæ̃^{44}	siʌ̃^{44}	ɕiʌ̃^{44}	tsʰyĩ^{21}	kʰuĩ^{21}
	里村	sʌ^{44}	ɕiʌ^{44}	tsio^{44}	tɕio^{44}	tsʰã^{44}	tɕʰiã^{44}	siʌ̃^{44}	ɕiʌ̃^{44}	tsʰyĩ^{21}	kʰuĩ^{21}
	思口	sʌ^{44}	ɕiʌ^{44}	tsio^{44}	tɕio^{44}	tsʰɑ̃^{44}	tɕʰiɑ̃^{44}	siʌ̃^{44}	ɕiʌ̃^{44}	tsʰyĩ^{21}	kʰuĩ^{21}
	中雲	sʌ^{33}	ɕiʌ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰɔ̃^{33}	tɕʰiɔ̃^{33}	siɑ̃^{33}	ɕiɑ̃^{33}	tsʰĩ^{21}	tɕʰyĩ^{21}
	太白	ɕiɯ^{44}	ɕiɯ^{44}	tsia^{44}	tɕio^{44}	tsʰɔ̃^{44}	tɕʰiɔ̃^{44}	siɑ̃^{44}	ɕiɑ̃^{44}	tsʰĩ^{21}	tɕʰyĩ^{21}
	許村	sʌ^{33}	ɕiʌ^{33}	tsiaɔ^{33}	tɕio^{33}	tsʰɑ̃^{33}	tɕʰiɑ̃^{33}	siɔ̃^{33}	ɕiɔ̃^{33}	tsʰĩ^{51}	tɕʰyĩ^{51}
	珍珠山	sʌ^{33}	ɕiʌ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰɑ̃^{33}	tɕʰiɑ̃^{33}	siɔ̃^{33}	ɕiɔ̃^{33}	tsʰĩ^{51}	tɕʰyĩ^{51}
	沖田	sʌ^{33}	ɕiʌ^{33}	tsio^{33}	tɕio^{33}	tsʰɑ̃^{33}	tɕʰiɑ̃^{33}	siɔ̃^{33}	ɕiɔ̃^{33}	tsʰĩ^{21}	tɕʰyĩ^{21}
	游山	sæ^{33}	ɕiæ^{33}	tsiaɔ^{33}	tɕio^{33}	tsʰɑ̃^{33}	tɕʰiɑ̃^{33}	siɔ̃^{33}	ɕiɔ̃^{33}	tsʰĩ^{21}	tɕʰyĩ^{21}
績溪県	臨溪	ɕio^{31}		tɕiɤ^{31}		tɕʰiã^{31}		ɕiõ^{31}		tɕʰyɛ̃^{55}	
	上庄	sɛ^{21}	ɕiɯ^{21}	tɕiɤ^{21}		tsʰɛ̃^{21}	tɕʰiã^{21}	ɕiõ^{21}		tɕʰyĩ^{42}	
	鎮頭	sɛ^{21}	ɕiɯ^{21}	tɕiɤ^{21}		tsʰɛ̃^{21}	tɕʰiɛ̃^{21}	ɕiõ^{21}		tɕʰyĩ^{42}	
	瀛洲	si^{42}		tɕiɛ^{42}		tɕʰiã^{42}		ɕiõ^{42}		tɕʰyĩ^{44}	
	伏嶺	si^{42}		tɕiɛ^{42}		tɕʰiã^{42}		ɕiõ^{42}		tɕʰyĩ^{44}	
	楊溪	si^{21}		tɕiɛ^{21}		tɕʰiã^{21}		ɕiõ^{21}		tɕʰyĩ^{55}	
	板橋頭	si^{42}		tɕiɛ^{42}		tɕʰiã^{42}		ɕiõ^{42}		tɕʰyĩ^{55}	
	金沙	si^{21}		tɕiɛ^{21}		tɕʰiã^{21}		ɕiõ^{21}		tɕʰyĩ^{55}	
	家朋	si^{42}		tɕiɛ^{42}		tɕʰiã^{42}		ɕiõ^{42}		tɕʰyĩ^{44}	

表8　そり舌音の [tʂ][tʂʰ][ʂ]

		茶	卓	沙	柴	長形容詞	虫	扇名詞	針	竹	船
中古音		ɖʱa	ʈɔk	ʃa	ʤʱai	ɖʱĭaŋ	ɖʱĭuŋ	ɕiɛn	tɕĭĕm	ʈĭuk	dzʱĭwɛn
北京語		tʂʰa^{35}	tʂuo^{55}	ʂa^{55}	tʂʰai^{35}	tʂʰɑŋ^{35}	tʂʰuŋ^{35}	ʂan^{51}	tʂən^{55}	tʂu^{35}	tʂʰuan^{35}
祁門県	**金字牌**	tʂʰa^{55}	tʂɔ^{35}	ʂa^{31}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{212}	tʂɤn^{31}	tu^{35}	ʃỹɐ^{55}
	大中	tʂʰa^{55}	tʂɔ^{35}	ʂa^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{212}	tʂɤn^{21}	tʂu^{35}	ʃỹɐ^{55}
	塔坊	tʂʰo^{55}	tʂɔ^{24}	ʂuɐ^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{212}	tʂɤn^{21}	tʂu^{24}	ʃỹɐ^{55}
	平里	tʂʰo^{55}	tʂɔ^{25}	ʂo^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{212}	tʂɤn^{21}	tʂu^{25}	ʃỹɐ^{55}
	溶口	tʂʰo^{55}	tʂɔ^{324}	ʂo^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{212}	tʂɤn^{21}	tʂu^{324}	ʃỹɐ^{55}
	閶頭	tʂʰo^{55}	tʂɔ^{35}	ʂo^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{213}	tʂɤn^{21}	tʂu^{35}	ʃỹɐ^{55}
	晨光	tʂʰo^{55}	tʂuɐ^{35}	ʂo^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{212}	tʂɤn^{21}	tʂu^{35}	ʃỹɐ^{55}
	大北	tʂʰo^{55}	tʂɔ^{214}	ʂo^{21}	ʂa^{55}	tʂʰɔ̃^{55}	tʂʰɤŋ^{55}	ɕĭɐ^{42}	tʂɤn^{21}	tʂu^{214}	ʃỹɐ^{55}
	許村	tʂʰo^{44}	tʂɔ^{213}	ʂo^{21}	ʂa^{44}	tʂʰɔ̃^{44}	tʂʰɤŋ^{44}	ɕĭɐ^{42}	tʂɤn^{21}	tʂu^{213}	tɕʰỹɐ^{44}
	古溪	tʂʰo^{44}	tʂɔ^{214}	ʂo^{21}	ʂa^{44}	tʂʰɔ̃^{44}	tʂʰɤŋ^{44}	ɕĭɐ^{42}	tʂɤn^{21}	tʂu^{214}	ʃỹɐ^{44}
	城安	tsʰoɐ^{55}	tsɔ^{324}	soɐ^{21}	sa^{55}	tsʰɔ̃^{55}	tsʰoŋ^{55}	sɤn^{42}	tsɛn^{21}	tsu^{324}	tɕʰyɛ̃
	桃源	tʂʰo^{35}	tʂɑu^{324}	ʂo^{21}	tʂʰa^{35}	tʂʰɔ̃^{35}	tʂʰoŋ^{35}	ɕĭɐ^{212}	tɕiɛn^{21}	tu^{324}	tɕʰỹɐ^{35}
	高塘	tʂʰo^{35}	tʂɑu^{324}	ʂo^{21}	ʂa^{35}	tʂʰɔ̃^{35}	tʂʰoŋ^{35}	ɕĭɐ^{212}	tɕiɛn^{21}	tu^{324}	ʃỹɐ^{35}
婺源県	中村	tsʰo^{53}	tsau^{55}	so^{33}	sa^{53}	tsʰã^{53}	tsʰɤŋ^{53}	sĩ^{213}	tsɛn^{33}	tsu^{55}	xuĩ^{53}
	溪頭	tsʰo^{53}	tsau^{55}	so^{33}	sa^{53}	tsʰã^{53}	tsʰɤŋ^{53}	sĩ^{213}	tsɛn^{33}	tsu^{55}	xuĩ^{53}
	秋口	tsʰo^{21}	tsau^{31}	so^{33}	sɔ^{21}	tsʰɑ̃^{21}	tsʰɐm^{21}	sĩ^{324}	tsɛn^{33}	tsu^{31}	xuĩ^{21}
	河東	tsʰo^{21}	tsau^{31}	so^{33}	sɔ^{21}	tsʰã^{21}	tsʰɤŋ^{21}	sĩ^{324}	tsɛn^{33}	tsu^{31}	xuĩ^{21}
	查村	tsʰo^{21}	tsau^{31}	so^{33}	sɔ^{21}	tsʰã^{21}	tsʰɤŋ^{21}	sĩ^{324}	tsɛn^{33}	tsu^{31}	xuĩ^{21}
	車田	tsʰo^{21}	tsau^{53}	so^{44}	sɔ^{21}	tsʰʌ̃^{21}	tsʰɤm^{21}	sĩ^{324}	tsɛn^{44}	tsu^{53}	xuĩ^{21}
	里村	tsʰo^{21}	tsau^{53}	so^{44}	sɔ^{21}	tsʰʌ̃^{21}	tsʰʌm^{21}	sĩ^{324}	tsɛn^{44}	tsu^{53}	xuĩ^{21}
	思口	tsʰo^{21}	tsau^{31}	so^{44}	sɔ^{21}	tsʰʌ̃^{21}	tsʰʌm^{21}	sĩ^{324}	tsɛn^{44}	tsu^{31}	xuĩ^{21}
	中雲	tsʰo^{21}	tsau^{51}	so^{33}	sɔ^{21}	tsʰɑ̃^{21}	tsʰɐm^{21}	ɕĩ^{35}	tsɛn^{33}	tsu^{51}	xuĩ^{21}
	太白	tʂʰo^{21}	tʂau^{51}	ʂo^{44}	ʂɔ^{21}	tʂʰɑ̃^{21}	tʂʰɑm^{21}	ɕĩ^{35}	tʂɛn^{44}	tʂu^{51}	ɕĩ^{21}
	許村	tʂʰe^{51}	tʂɔ^{55}	ʂe^{33}	ʂɔ^{51}	tʂʰɔ̃^{51}	tʂʰʌm^{51}	ɕĩ^{35}	tʂɛn^{33}	tʂɔ^{55}	ɕĩ^{51}
	珍珠山	tʂʰɯ^{51}	tʂɔ^{55}	ʂo^{33}	ʂɔ^{51}	tʂʰɔ̃^{51}	tʂʰɤm^{51}	ɕĩ^{35}	tʂɛn^{33}	tʂɔ^{55}	xɔ̃^{51}
	沖田	tsʰɯ^{21}	tsɔ^{51}	so^{33}	sɔ^{21}	tsʰɔ̃^{21}	tsʰɐm^{21}	ɕĩ^{35}	tsɛn^{33}	tsu^{51}	tsʰɻ̃^{21}
	游山	tʂʰɯ^{21}	tʂɑɔ^{51}	ʂɯ^{33}	ʂɔ^{21}	tʂʰɔ̃^{21}	tʂʰɑm^{21}	ɕĩ^{35}	tʂɛn^{33}	tʂɔ^{51}	ɕĩ^{21}
績溪県	臨溪	tsʰo^{55}	tsɔ^{3}	so^{31}	ɕia^{55}	tɕʰiõ^{55}	tsʰɤ̃^{55}	ɕyɛ̃^{213}	tɕiən^{31}	tsu^{3}	tɕʰyɛ̃^{55}
	上庄	tsʰo^{42}	tsɔ^{54}	so^{21}	sɔ^{42}	tɕʰiõ^{42}	tsʰuɛ̃^{42}	ɕyĩ^{324}	tsɛ̃^{21}	tsu^{54}	tɕʰyĩ^{42}
	鎮頭	tsʰo^{42}	tsɔ^{54}	so^{21}	sɔ^{42}	tɕʰiõ^{42}	tsʰɛ̃^{42}	ɕyĩ^{324}	tsɛ̃^{21}	tsɯ^{54}	tɕʰyĩ^{42}
	瀛洲	tsʰo^{44}	tsɔ^{3}	so^{42}	ɕiɔ^{44}	tɕʰiõ^{44}	tsʰã^{44}	ɕyĩ^{35}	tɕiã^{42}	tsʌ^{3}	tɕʰyĩ^{44}
	伏嶺	tsʰo^{44}	tsɔ^{3}	so^{42}	ɕiɔ^{44}	tɕʰiõ^{44}	tsʰã^{44}	ɕyĩ^{35}	tɕiã^{42}	tsʌ^{3}	tɕʰyĩ^{44}
	楊溪	tsʰo^{55}	tsɔ^{35}	so^{21}	ɕiɔ^{55}	tɕʰiõ^{55}	tsʰã^{55}	ɕyĩ^{212}	tɕiã^{21}	tsʌ^{35}	tɕʰyĩ^{55}
	板橋頭	tsʰo^{55}	tsɔ^{3}	so^{42}	ɕiɔ^{55}	tɕʰiõ^{55}	tsʰã^{55}	ɕyĩ^{35}	tɕiã^{42}	tsʌ^{3}	tɕʰyĩ^{55}
	金沙	tsʰɯ^{55}	tsɤ^{35}	sɯ^{21}	ɕiɔ^{55}	tɕʰiõ^{55}	tsʰã^{55}	ɕyĩ^{213}	tɕiã^{21}	tsʌ^{35}	tɕʰyĩ^{55}
	家朋	tsʰɯ^{44}	tsɤ^{3}	sɯ^{42}	ɕiɔ^{44}	tɕʰiõ^{44}	tsʰã^{44}	ɕyĩ^{35}	tɕiã^{42}	tsʌ^{3}	tɕʰyĩ^{44}

4.2.3　そり舌音の［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］

北京語にはそり舌音，すなわち舌尖後音の［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］がある。そり舌音は中古音にも存在したが，長江以南の漢語方言にはそり舌音を有する方言は少ない。しかし，徽州地区でも江西省でもそり舌音を有する方言がある。

表8によると，今回の調査地点のうち，［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］を有する方言は16地点ある（表8で地名をゴチックで示した地点）。その多くは祁門県に分布しているが，婺源県南部の太白，許村，珍珠山，游山にも分布している。但し，この地域の「そり舌音」は，舌尖と硬口蓋で狭めが形成されるのではなく，舌尖と上歯茎で狭めが形成され，後部歯茎音の［tʃ］に近い。その上，この地域の［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］は［i］の前に出現する。例えば，金字牌で「池」は［tʂʰi^{55}］と読まれている。他方言では，［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］が［i］と結合する例はほとんどない。

もう一点，説明を要するのは，そり舌音を有する16地点では［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］と［ts］［tsʰ］［s］は自由変異ではなく，音韻的に対立していることである（表9参照）。例えば，溶口では「草」は［tsʰo^{42}］，「炒」は［tʂʰo^{42}］である。

4.3　韻母

4.3.1　鼻音韻尾

中古音には-m，-n，-ŋの3種類の鼻音韻尾があった。例えば，「甜」（甘い）の韻尾は-m，「田」は-n，「鏡」は-ŋであった。しかし，北京語では，-ŋはそのまま継承しているが，-mと-nは-nに合流したため，「甜」と「田」は同音になり，いずれも韻尾が-nである。

北京語と比べると，南方方言の状況は複雑である。贛語は大体北京語と同じであるが，一部の-ŋが-nになった方言が少なくない。呉語ではほとんどの方言で-mが消え，-n，-ŋだけ存在している。北京語とは異なり，複雑なのは，中古の-mが無条件で-nになったのではなく，後続韻母を条

表9　［tʂ］［tʂʰ］［ʂ］と［ts］［tsʰ］［s］の区別

		草	炒	湊	臭	作	卓
中古音		tsʰɑu	tʃʰau	tsʰəu	tɕʰĭəu	tsɑ	ʈɔk
北京語		tsʰau^{214}	tʂʰau^{214}	tsʰou^{51}	tʂʰou^{51}	tsuo^{51}	tʂuo^{55}
祁門県	金字牌	tsʰo^{53}	tʂʰuɐ^{53}	tsʰɛ^{213}	tʂʰɛ^{212}	tsɔ^{35}	tʂɔ^{35}
	大中	tsʰo^{42}	tʂʰuɐ^{42}	tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	tsɔ^{35}	tʂɔ^{35}
	塔坊	tsʰo^{42}	tʂʰuɐ^{42}	tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	tsɔ^{24}	tʂɔ^{24}
	平里	tsʰo^{53}	tʂʰuɐ^{53}	tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	tsɔ^{25}	tʂɔ^{25}
	溶口	tsʰo^{44}	tʂʰo^{44}	tsʰʌ^{212}	tʂʰu^{212}	tsɔ^{324}	tʂɔ^{324}
	閶頭	tsʰo^{42}	tʂʰo^{42}	tsʰɛ^{213}	tʂʰɛ^{213}	tsɔ^{35}	tʂɔ^{35}
	晨光	tsʰo^{53}	tʂʰuɐ^{53}	tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	tsuɐ^{35}	tʂuɐ^{35}
	大北	tsʰo^{35}	tʂʰo^{35}	tsʰɛ^{42}	tʂʰɤ^{42}	tsɔ^{213}	tʂɔ^{214}
	許村	tsʰo^{35}	tʂʰo^{35}	tsʰio^{42}	tɕʰio^{42}	tsɔ^{213}	tʂɔ^{213}
	古溪	tsʰo^{35}	tʂʰo^{35}	tsʰio^{42}	tɕʰio^{42}	tsɔ^{214}	tʂɔ^{214}
	桃源	tsʰɑu^{44}	tʂʰɑu^{44}	tsʰiu^{212}	tɕʰiu^{212}	tsɑu^{324}	tʂɑu^{324}
	高塘	tsʰɑu^{44}	tʂʰɑu^{44}	tsʰiu^{212}	tɕʰiu^{212}	tsɑu^{324}	tʂɑu^{324}
婺源県	太白	tsʰa^{3}	tʂʰau^{3}	tsʰɤɯ^{35}	tʂʰɤɯ^{35}	tsau^{51}	tʂau^{51}
	許村	tsʰa^{3}	tʂʰɔ^{3}	tsʰʌ^{35}	tɕʰiʌ^{35}	tsɔ^{55}	tʂɔ^{55}
	珍珠山	tsʰa^{3}	tʂʰɔ^{3}	tsʰʌ^{35}	tɕʰiæ^{35}	tsɔ^{55}	tʂɔ^{55}
	游山	tsʰa^{3}	tʂʰaɔ^{3}	tsʰɑ^{35}	tɕʰiæ^{35}	tsɔ^{51}	tʂaɔ^{51}

表10 鼻音韻尾

			鹽	深	難	銀	雙	名	洞
中古音			jĭɛm	ɕĭĕm	nɑn	ŋĭĕn	ʃɔŋ	mĭɛŋ	dʰuŋ
北京語			ian^{35}	ʂən^{55}	nan^{35}	in^{35}	suɑŋ^{55}	miŋ^{35}	tuŋ^{51}
祁門県	金字牌	A	niẽ^{55}	ɕiɤn^{31}	nɔ̃^{55}	iɤn^{55}	ʂũe^{31}	mã^{55}	tʰɤŋ^{33}
	大中		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	iɤn^{55}	ʂũe^{21}	mã^{55}	tʰɤŋ^{33}
	塔坊		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	iɤn^{55}	ʂũe^{21}	mã^{55}	tʰɤŋ^{33}
	平里		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	niɤn^{55}	ʂũe^{21}	mã^{55}	tʰɤŋ^{33}
	溶口		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	niɤn^{55}	ʂũe^{21}	mẽ^{55}	tʰɤŋ^{33}
	閶頭		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	iɤn^{55}	ʂɔ̃^{21}	mã^{55}	tʰɤŋ^{33}
	晨光		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	iɤn^{55}	ʂũe^{21}	mã^{55}	tʰɤŋ^{33}
	大北		niẽ^{55}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{55}	niɤn^{55}	ʂũe^{21}	mã^{55}	tʰɤŋ^{22}
	許村		niẽ^{44}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{44}	niɤn^{44}	ʂũe^{21}	mã^{44}	tʰɤŋ^{22}
	古溪		niẽ^{44}	ɕiɤn^{21}	nɔ̃^{44}	iɤn^{44}	ʂũe^{21}	mɛ̃^{44}	tʰɤŋ^{33}
	城安		iɛ̃^{55}	sɤn^{21}	nɛ̃^{55}	in^{55}	sɔ̃^{21}	min^{55}	tʰoŋ^{33}
	桃源		niẽ^{35}	ɕiɛn^{21}	nɔ̃^{35}	iɛn^{35}	ʂaŋ^{21}	mã^{35}	tʰoŋ^{33}
	高塘		niẽ^{35}	ɕiɛn^{21}	nɔ̃^{35}	iɛn^{35}	ʂaŋ^{21}	mɑ̃^{35}	tʰoŋ^{33}
婺源県	中村		ĩ^{53}	sɛn^{33}	nã^{53}	niɛn^{53}	sã^{33}	mã^{53}	tʰɤŋ^{55}
	溪頭		ĩ^{53}	sɛn^{33}	nã^{53}	niɛn^{53}	sã^{33}	mã^{53}	tʰɤŋ^{55}
	河東		ĩ^{21}	sɛn^{33}	nɔ̃^{21}	niɛn^{21}	sã^{33}	mã^{21}	tʰɤŋ^{31}
	查村		ĩ^{21}	sɛn^{33}	nɔ̃^{21}	niɛn^{21}	sã^{33}	mã^{21}	tʰɤŋ^{31}
	車田		ĩ^{21}	sɛn^{44}	nɔ̃^{21}	ŋɛn^{21}	sʌ̃^{44}	mæ̃^{21}	tʰɤm^{31}
	里村		ĩ^{21}	sɛn^{44}	nɔ̃^{21}	niɛn^{21}	sʌ̃^{44}	mã^{21}	tʰʌm^{53}
	思口		ĩ^{21}	sɛn^{44}	nɔ̃^{21}	niɛn^{21}	sʌ̃^{44}	mɑ̃^{21}	tʰʌm^{53}
	秋口	B	ĩ^{21}	sɛn^{33}	num^{21}	niɛn^{21}	sɑ̃^{33}	mɑ̃^{21}	tʰɐm^{31}
	中雲		ĩ^{21}	sɛn^{33}	num^{21}	iɛn^{21}	sã^{33}	mã^{21}	tʰɐm^{51}
	太白		ĩ^{21}	ɕiɛn^{44}	nɤm^{21}	iɛn^{21}	ʂɑ̃^{44}	mɔ̃^{21}	tʰɑm^{51}
	許村		ĩ^{51}	ɕiɛn^{33}	num^{51}	iɛn^{51}	ʂɔ̃^{33}	mɑ̃^{51}	tʰʌm^{55}
	珍珠山		ĩ^{51}	ɕiɛn^{33}	num^{51}	iɛn^{51}	ʂɔ̃^{33}	mɑ̃^{51}	tʰɤm^{55}
	沖田		ĩ^{21}	ɕiɛn^{33}	num^{21}	iɛn^{21}	sɔ̃^{33}	mɑ̃^{21}	tʰɐm^{51}
	游山		ĩ^{21}	ɕiɛn^{33}	num^{21}	iɛn^{21}	ʂɔ̃^{33}	mɑ̃^{21}	tʰɑm^{51}
績溪県	瀛洲	C	ĩ^{44}	ɕiã^{42}	lɔ^{44}	niã^{44}	sõ^{42}	miã^{44}	tʰã^{21}
	伏嶺		ĩ^{44}	ɕiã^{42}	lɔ^{44}	niã^{44}	sõ^{42}	miã^{44}	tʰã^{21}
	楊溪		ĩ^{55}	ɕiã^{21}	lɔ^{55}	niã^{55}	sõ^{21}	miã^{55}	tʰã^{33}
	板橋頭		ĩ^{55}	ɕiã^{42}	lɔ^{55}	niã^{55}	sõ^{42}	miã^{55}	tʰã^{22}
	金沙		ĩ^{55}	ɕiã^{21}	lɔ^{55}	niã^{55}	sõ^{21}	miã^{55}	tʰã^{33}
	家朋		ĩ^{44}	ɕiã^{42}	lɔ^{44}	niã^{44}	sõ^{42}	miã^{44}	tʰã^{21}
	臨溪		ĩ^{55}	ɕiã^{31}	la^{55}	niã^{55}	sõ^{31}	miã^{55}	tʰã^{22}
	上庄	D	ĩ^{42}	sɛ̃^{21}	nɔ̃^{42}	niɛ̃^{42}	sõ^{21}	miɛ̃^{42}	tʰuɛ̃^{33}
	鎮頭		ĩ^{42}	sɛ̃^{21}	nɔ̃^{42}	niɛ̃^{42}	sõ^{21}	miɛ̃^{42}	tʰɛ̃^{33}

表11　鼻音韻尾の類型

	難	深銀	洞	分布地域
A 類	鼻音化韻母	-n	-ŋ（-m）	祁門県，婺源県北部（大中，大北，中村，查村等）
B 類	-m	-n	-m	婺源県南部（大白，沖田等）
C 類	口母音	鼻音化韻母	鼻音化韻母	績溪県（家朋，金沙等）
D 類	鼻音化韻母	鼻音化韻母	鼻音化韻母	績溪県（上庄，鎮頭）

件として-ŋや鼻音化韻母，また鼻音成分を失って口母音になることもある。-m だけでなく，-n，-ŋの変化も複雑であり，後続韻母を条件として，-n，-ŋ，鼻音化韻母，口母音に変化している。

徽州方言の状況は贛語や呉語とも異なる。-mは-nと合流しているが，一部の地点では-mが見られる。その上，-ŋから由来してきた-mもある。

表10で挙げた例字は，中古音ではいずれも鼻音韻尾を有していた。まず，「雙名洞」は-ŋであった。「鹽深」の韻尾は-m,「難銀」は-nであったが，徽州方言ではすべての地点で合流している。婺源県には韻尾-mを有する方言が多い。

表10で挙げた例字のうち，「鹽雙名」は，すべての地点で鼻音韻尾が脱落し，鼻音化韻母になっている。地域差又は地点間の差異がみられるのは「難深銀洞」であり，それらの音声によって以下のように四類型に分類できる。「口母音」は，例えば［lɔ］のように，鼻音成分を失ったことを示す。

表11から，まず-ŋは唯一A類の各地点にしか現れないことが分かる。祁門県及び婺源県の中村，溪頭，河東，查村では「洞」が-ŋである。A類はこのほか，「難」が鼻音化韻母，「深銀」が-nである。この類型は祁門県と婺源県北部に分布している。婺源県の車田，里村，思口は「洞」が-mであり，この点ではB類に近い。

B類が他と異なる特徴は，「難」と「洞」がいずれも-mであることである。「難」は中古音で-nであったが，B類の各地点では-mになっている。これに対して，「深」と「銀」は中古音でそれぞれ-m, -nであったが，B類の各地点ではいずれも-nになっている。「洞」の由来は中古音の通摂*duŋである。つまり-ŋ は韻母がuŋの場合のみɐmのように-mに変化したのである。この問題については，別稿で改めて議論したい。この類型は婺源県南部に分布している。

C類とD類では，鼻音韻尾は脱落し，ほとんど鼻音化韻母又は口母音になっている。「深銀」と「洞」がいずれも鼻音化韻母になる点で両類は共通するが，「難」は，C類で口母音，D類で鼻音化韻母になっている。D類型は績溪県の上庄，鎮頭にしか分布していない。C類は上庄，鎮頭を除く績溪県に分布している。

4.3.2 「宝」と「飽」の区別

「宝」と「飽」，「毛」と「茅」は，北京語ではそれぞれ同音であり，［pau^{214}］，［mau^{35}］と読まれる。しかし，徽州では「宝」/「飽」，「毛」/「茅」を区別する地点が少なくない。例えば，婺源県の中村では「宝」と「飽」を区別し，それぞれ［pɐ^{3}］，［pau^{3}］である。中国音韻学の用語で言えば，この区別は中古音の効摂1等と2等の区別に相当する（中古音：*ɑu/*au）。同じく効摂1等と2等でも，声母が軟口蓋音であった「高」/「交」，「好」/「孝」は，北京語でも［kau^{55}］/［tɕiau^{55}］，［xau^{51}］/［ɕiau^{51}］のように同音ではない。効摂2等で口蓋化が起き，介母音［i］が発生したためである（kau > kiau > tɕiau）。中古音ではきちんと区別したが，現在の漢語方言では合流に向かった方言も少なくないため，徽州方言のように各漢語方言区には区別する方言があるば区別しない方言もある。表12は徽州方言におけるこれら四組の漢字の発音を示したものである。

表12から見ると，「宝」と「飽」を区別する地

表12 「宝」/「飽」等の区別

		宝	飽	毛	茅	高	交	好動詞	孝
中古音		pɑu	pau	mɑu	mau	kɑu	kau	xɑu	xau
北京語		pau^{214}		mau^{35}		kau^{55}	tɕiau^{55}	xau^{51}	ɕiau^{51}
祁門県	金字牌	po^{53}		mo^{55}		ko^{31}		xo^{213}	
	大中	po^{42}		mo^{55}		ko^{21}		xo^{212}	
	塔坊	po^{42}		mo^{55}		ko^{21}		xo^{212}	
	平里	po^{53}		mo^{55}		ko^{21}		xo^{212}	
	溶口	po^{44}		mo^{55}		ko^{21}		xo^{212}	
	閶頭	pɤ^{42}	po^{42}	mɤ^{55}	mo^{55}	kɤ^{21}	ko^{21}	xɤ^{213}	xo^{213}
	晨光	po^{53}		mo^{55}		ko^{21}		xo^{212}	
	大北	po^{35}		mo^{55}		ko^{21}		xo^{42}	
	許村	po^{35}		mo^{44}		ko^{21}		xo^{42}	
	古溪	po^{35}		mo^{44}		ko^{21}		xo^{42}	
	城安	pau^{35}		mau^{55}		kau^{21}	tɕiau^{21}	xau^{42}	ɕiau^{42}
	桃源	pɑu^{44}		mɑu^{35}		kɑu^{21}		xɑu^{212}	
	高塘	pɑu^{44}		mɑu^{35}		kɑu^{21}		xɑu^{212}	
婺源県	中村	pɐ^{3}	pau^{3}	mɐ^{53}	mau^{53}	kɐ^{33}	kau^{33}	xɐ^{213}	xau^{213}
	溪頭	pɐ^{3}	pau^{3}	mɐ^{53}	mau^{53}	kɐ^{33}	kau^{33}	xɐ^{213}	xau^{213}
	秋口	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{33}	kau^{33}	xa^{324}	xau^{324}
	河東	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{33}	kau^{33}	xa^{324}	xau^{324}
	查村	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{33}	kau^{33}	xa^{324}	xau^{324}
	車田	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{44}	kau^{44}	xa^{324}	xau^{324}
	里村	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{44}	kau^{44}	xa^{324}	xau^{324}
	思口	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{44}	kau^{44}	xa^{324}	xau^{324}
	中雲	pa^{3}	pɔ^{3}	ma^{21}	mɔ^{21}	ka^{33}	kɔ^{33}	xa^{35}	xɔ^{35}
	太白	pa^{3}	pau^{3}	ma^{21}	mau^{21}	ka^{44}	kau^{44}	xa^{35}	xau^{35}
	許村	pa^{3}	paɔ^{3}	ma^{51}	maɔ^{51}	ka^{33}	kaɔ^{33}	xa^{35}	xaɔ^{35}
	珍珠山	pa^{3}	paɔ^{3}	ma^{51}	maɔ^{51}	ka^{33}	kaɔ^{33}	xa^{35}	xaɔ^{35}
	沖田	pa^{3}	pɔ^{3}	ma^{21}	mɔ^{21}	ka^{33}	kɔ^{33}	xa^{35}	xɔ^{35}
	游山	pa^{3}	paɔ^{3}	ma^{21}	maɔ^{21}	ka^{33}	kaɔ^{33}	xa^{35}	xaɔ^{35}
績溪県	臨溪	pɤ^{35}		mɤ^{55}		kɤ^{31}	tɕiɤ^{31}	xɤ^{22}	ɕiɤ^{22}
	上庄	pɤ^{55}		mɤ^{42}		kɤ^{21}	tɕiɤ^{21}	xɤ^{33}	ɕiɤ^{33}
	鎮頭	pɤ^{55}		mɤ^{42}		kɤ^{21}	tɕiɤ^{21}	xɤ^{33}	ɕiɤ^{33}
	瀛洲	pɤ^{213}		mɤ^{44}		kɤ^{42}	tɕiɛ^{42}	xɤ^{21}	ɕiɛ^{21}
	伏嶺	pɤ^{213}		mɤ^{44}		kɤ^{42}	tɕiɛ^{42}	xɤ^{21}	ɕiɛ^{21}
	楊溪	pɤ^{44}		mɤ^{55}		kɤ^{21}	tɕiɛ^{21}	xɤ^{33}	ɕiɛ^{33}
	板橋頭	pɤ^{213}		mɤ^{55}		kɤ^{42}	tɕiɛ^{42}	xɤ^{22}	ɕiɛ^{22}
	金沙	pɤ^{44}		mɤ^{55}		kɤ^{21}	tɕiɛ^{21}	xɤ^{33}	ɕiɛ^{33}
	家朋	pɤ^{213}		mɤ^{44}		kɤ^{42}	tɕiɛ^{42}	xɤ^{21}	ɕiɛ^{21}

表13 「楼」/「劉」等の区別

			楼	劉	狗	九	湊	臭[2]	猴	休
中古音			ləu	lĭəu	kəu	kĭəu	tsʰəu	tɕʰĭəu	ɣəu	xĭəu
北京語			lou^{35}	liou^{35}	kou^{214}	tɕiou^{214}	tʂʰou^{51}	tʂʰou^{51}	xou^{35}	ɕiou^{55}
祁門県	金字牌	A1	lɛ^{55}		tɕiɛ^{53}		tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	ɕiɛ^{55}	ɕiɛ^{31}
	大中	A1	lɛ^{55}		tɕiɛ^{42}		tsʰɛ^{213}	tʂʰɛ^{212}	ɕiɛ^{55}	ɕiɛ^{21}
	塔坊	A1	lɛ^{55}		tɕiɛ^{53}		tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	ɕiɛ^{55}	ɕiɛ^{21}
	平里	A1	lɛ^{55}		tɕiɛ^{53}		tsʰɛ^{212}	tʂʰɛ^{212}	ɕiɛ^{55}	ɕiɛ^{21}
	溶口	B2	liʌ^{55}		tɕiʌ^{44}		tsʰiʌ^{212}	tʂʰu^{212}	ɕiʌ^{55}	ɕiʌ^{21}
	閶頭	A1	lɛ^{55}		tɕiɛ^{42}		tsʰʌ^{212}	tʂʰɛ^{213}	ɕiɛ^{55}	ɕiɛ^{21}
	晨光	A1	lɛ^{55}		tɕiɛ^{53}		tsʰɛ^{213}	tʂʰɛ^{212}	ɕiɛ^{55}	ɕiɛ^{21}
	大北	A1	lɤ^{55}		tɕiɤ^{35}		tsʰɛ^{212}	tʂʰɤ^{42}	ɕiɤ^{55}	ɕiɤ^{21}
	許村	A2	lio^{44}		tɕio^{35}		tsʰio^{42}	tɕʰio^{42}	ɕio^{44}	ɕio^{21}
	古溪	A2	lio^{44}		tɕio^{35}		tsʰio^{42}	tɕʰio^{42}	ɕio^{44}	ɕio^{21}
	城安	A2	liu^{55}		kiu^{35}		tɕʰiu^{42}		ɕiu^{55}	ɕiu^{21}
	桃源	A2	liu^{35}		tɕiu^{44}		tsʰiu^{212}	tɕʰiu^{212}	ɕiu^{35}	ɕiu^{21}
	高塘	A2	liu^{35}		tɕiu^{44}		tsʰiu^{212}	tɕʰiu^{212}	ɕiu^{35}	ɕiu^{21}
婺源県	中村	A1	læ^{53}		tɕiæ^{3}		tsʰæ^{213}		ɕiæ^{53}	ɕiæ^{33}
	溪頭	A1	læ^{53}		tɕiæ^{3}		tsʰæ^{213}		ɕiæ^{53}	ɕiæ^{33}
	秋口	A1	lʌ^{21}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{324}		ɕiʌ^{21}	ɕiʌ^{33}
	河東	A1	laɯ^{21}		tɕiaɯ^{3}		tsʰaɯ^{324}		ɕiaɯ^{21}	ɕiaɯ^{33}
	查村	A1	laɯ^{21}		tɕiaɯ^{3}		tsʰaɯ^{324}		ɕiaɯ^{21}	ɕiaɯ^{33}
	車田	A1	lʌ^{21}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{324}		ɕiʌ^{21}	ɕiʌ^{44}
	里村	A1	lʌ^{21}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{324}		ɕiʌ^{21}	ɕiʌ^{44}
	思口	A1	lʌ^{21}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{324}		ɕiʌ^{21}	ɕiʌ^{44}
	中雲	A1	lʌ^{21}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{35}		ɕiʌ^{21}	ɕiʌ^{33}
	沖田	A1	lʌ^{21}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{35}		ɕiʌ^{21}	ɕiʌ^{33}
	太白	A1	lɤɯ^{21}		tɕiɤɯ^{3}		tsʰɤɯ^{35}	tʂʰɤɯ^{35}	ɕiɯ^{21}	ɕiɯ^{44}
	許村	B1	lʌ^{51}		tɕiʌ^{3}		tsʰʌ^{35}	tɕʰiʌ^{35}	ɕiʌ^{51}	ɕiʌ^{33}
	珍珠山	B1	lʌ^{51}		tɕiæ^{3}		tsʰʌ^{35}	tɕʰiæ^{35}	ɕiʌ^{51}	ɕiʌ^{33}
	游山	B1	lɑ^{21}		tɕiæ^{3}		tsʰɑ^{35}	tɕʰiæ^{35}	ɕiæ^{21}	ɕiæ^{33}
績溪県	上庄	C1	lɛ^{42}		ki^{55}	tɕiɯ^{55}	tsʰɛ^{324}		xɛ^{42}	ɕiɯ^{21}
	鎮頭	C2	lɛ^{42}		kɛ^{55}	tɕiɯ^{55}	tsʰɛ^{324}		xɛ^{42}	ɕiɯ^{21}
	瀛洲	A2	li^{44}		ki^{213}		tsʰi^{35}		xi^{44}	si^{42}
	伏嶺	A2	li^{44}		ki^{213}		tsʰi^{35}		xi^{44}	si^{42}
	楊溪	A2	li^{55}		ki^{44}		tsʰi^{213}		xi^{55}	si^{21}
	板橋頭	A2	li^{55}		ki^{213}		tsʰi^{35}		xi^{55}	si^{42}
	金沙	A2	li^{55}		ki^{44}		tsʰi^{213}		xi^{55}	si^{21}
	家朋	A2	li^{44}		ki^{213}		tsʰi^{35}		xi^{44}	si^{42}
	臨溪	D	lɛ^{55}	lio^{55}	ki^{35}	tɕio^{35}	tɕʰio^{213}		xɛ^{55}	ɕio^{31}

点では必ず,「毛」/「茅」,「高」/「交」,「好」/「孝」も区別することが分かる。四組すべてを区別する地点は,婺源県及び祁門県の閶頭に分布している。祁門県の城安，及び績溪県の各地点では,「宝」/「飽」,「毛」/「茅」を区別しないが,「高」/「交」,「好」/「孝」を区別する。「交」と「孝」は口蓋化が起きたためである。なお，臨溪，上庄，鎮頭を除く績溪県の各地点では,「高」/「交」,「好」/「孝」の主母音が異なり,「高好」が［ɤ］,「交孝」が［ɛ］である。

4.3.3 「楼」と「劉」の韻母

中古音では「楼」と「劉」の間に区別があった。この区別は中古音の流摂1等と3等の区別に相当する（中古音：*əu /*ɨəu)。北京語でも両者は同音でなく，［lou^{35}］［liou^{35}］のように介音-i-の有無の違いがある。しかし合流に向かった漢語方言も少なくない。特に，南方方言の中には，合流した方言があれば，対立している方言もある。表13によって，今回の調査地点での方言はほとんど合流に向かった。例えば，祁門県の古溪では,「楼」と「劉」がいずれも［la^{44}］である。このようなペアを表13に4組挙げた。

各組の韻母が同じかどうかに基づき，36の方言地点を分類できる。

A類では上記4組がいずれも韻母が同じである。この類型は各県に分布している。A類は韻母の介音-i-の有無によってさらに二類型に下位分類できる。A1類は，祁門県中東部及び婺源県の多くに分布しており,「猴休」と「狗九」に-i-介音がある。A2類は，祁門県西部及び績溪県中東部に分布しており，4組すべてに-i-介音が現れる。但し，績溪県中東部では，祁門県西部と異なり，iは主母音になっている。

B類では上記4組のうち韻母が異なるのは「湊臭」だけである。この類型は祁門県溶口のB2類と，婺源県許村，珍珠山，游山のB1類に下位分類できる。B2類では「湊」に-i-介音があり，B1では「臭」に-i-介音がある。また，B2類では「楼劉」に-i-介音があるが，B1類では「楼劉」に-i-介音がない。

C類では「湊臭」のほか,「猴休」の韻母も異なる。この類型は績溪県の上庄，鎮頭にしか分布していないが,「狗」の音声によって二類型に下位分類できる。C2の鎮頭では［kɛ^{55}］，C1の上庄では［ki^{55}］である。

D類は績県の臨溪しか分布していない。4組のうち，韻母が同じなのは「湊臭」だけである。

四類型の特徴を表14にまとめる。韻母が同じであれば「同」，-i-介音があれば「有」，なければ「無」で示す。

5．今後の課題

本稿は，徽州の祁門，婺源，績溪三県の36地点で収集した方言資料に基づき，いくつかの音韻的特徴を検討した。共時的分布を通じて，言語の通時的変化を考察するのは言語地理学の目的の一つ

表14 「楼」/「劉」等の類型

		楼	劉	狗	九	湊	臭	猴	休	分布地域
A類	A1類	同，無		同，有		同，無		同，有		祁門県中東部（晨光，大中等） 婺源県の多く（車田，沖田等）
	A2類	同，有				同，有				祁門県西部（古溪，高塘等） 績溪県東北部（楊溪，家朋等）
B類	B1類	同，無		同，有		無	有	同，有		婺源県（許村，珍珠山，游山）
	B2類	同，有				有	無			祁門県（溶口）
C類	C1類	同，無		有	有	同，無		無	有	績溪県（上庄）
	C2類			無						績溪県（鎮頭）
D類		無	有	有		同，有				績溪県（臨溪）

である。そのため，現在空白となっている徽州中部の調査資料を整理しなければならない。その後，音韻だけでなく，語彙，文法に関する特徴も整理・分析し，語彙変化の様相と原因を考察したい。

【注】

1 本稿で挙げる中古音は，すべて王力(1980)による。
2 北京語の「臭」は韻母が［ou］であり，「楼狗湊猴」と同じであるが，中古音では「劉九休」と同じく流摂3等に属する。

【参考文献】

平田昌司・趙日新・劉丹青・馮愛珍・木津祐子・溝口正人『徽州方言研究』好文出版，1998，pp.124～127.
黄燕「古泥来母字在現代漢語方言中的分混情況」『宿州学院学報』5号，宿州学院出版社，2007，pp.64～67.
王力『漢語史稿』中華書局，1980．pp.45～208.
趙日新「徽語古全濁声母今読的幾種類型」『語言研究』4号，華中科技大学出版社，2002，pp.106～110.
趙日新「徽語的特点和分区」『方言』3号，商務印書館，2005，pp.279～286.
趙日新「徽語中的長元音」『中国語文』1号，商務印書館，2005，pp.75～78.